

平畑(ひらばた)遺跡

調査期間: 昭和57年9月～59年3月(1982～84年)
 調査面積: 30000m²
 立地: 加江田川に面した標高約20～30mの台地上
 学内の位置: 農学部南棟・獣医棟・実験農場一帯



調査風景 1983年

発見された遺構と遺物

- ・縄文時代/早期のキャンプ跡(土坑1)
- ・縄文時代/後～晩期の集落(竪穴住居跡約70)
- ・古代～中世/の集落(掘立柱建物10)



竪穴住居跡(SA48・51)
 (床面に石皿が見える) →

■ 展示資料: 縄文時代後期後半～晩期前半(紀元前1500～1000年前)の集落関連遺物
 集落の概要: 70棟におよぶ竪穴住居跡が発見されている。

竪穴住居跡は円形ないし楕円形。総体的に小型の竪穴が多い。床面積が20m²を超えるものはわずかに3棟にすぎず、床面に地焼炉を設ける例も少ない。大型住居は上屋を支える柱は4本が基本だが、小型のものは一定しない。

遺物には膨大な量の縄文土器や石器の生活必需品のほか、わずかな装身具などがある。縄文土器は後期後半から晩期前半の貝殻文系が主体。出土遺物は、石皿・石斧・石鏃や石錘・土器片錘など、生業や生活に関わるものが多い。なお、堆積層の花粉分析から、ソバ・ゴマの花粉が検出され、原初的な植物栽培が行われた可能性も指摘されている。狩猟・採集・漁撈に加えて原初的栽培による安定的食料確保による定住生活の姿を見る。

■ 展示資料

- 土器: 平底の深鉢が主体。貝殻文・無文・沈線文・列点文などの文様がある。
- 石器
 - 石皿・磨石: ドングリなどの堅果類の実を搗りつぶして粉にする(砂岩)。
 - 打製石斧: 上部の挟りや扁平な形状から土掘り具か(頁岩・硬砂岩)。
 - 磨製石斧: 木材伐採・加工、土掘りなどの機能を併せもつ斧(硬砂岩など)
 - 石錘・土器片錘: 漁網錘、もしくは織物(アンギン編み)の錘。石錘は砂岩。土器片錘は土器の破片を加工してつくったもの→漁網錘使用法は下図参照。
 - 石錐: 先端が鋭く、穴をあけるために使用した(流紋岩か)。
 - 石匙: 動物の皮や肉、角や骨など動物質の加工や木や蔦など植物質の加工など、一種の携帯万能ナイフ(流紋岩か)。
 - 石鏃: 矢の先端に装着。打製。繊細な形状をつくり出す技に注目(石材は黒曜石・チャート・頁岩など)。
 - 勾玉: 硬玉製。濃緑色。割れているため形状はよく分からないが懸垂の紐をとおす孔がある。



縄文土器



石皿・磨石



打製石斧



石匙

石錐

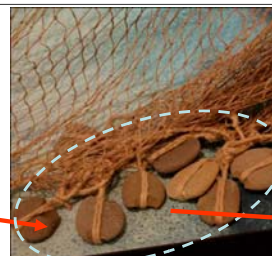


石鏃



勾玉

石錘と使用法



石錘装着網



漁網使用法